

一年の中でこのときだけ

「戦争を知らない子供たち」という歌があります。今から約五十年前の一九七一年に、シングルレコード（レコードなんて知らない人もいるだろうなあ）が発売され、その後映画の挿入歌になったり、このタイトルで映画化もされました。

当時私は、小学生から中学生にかけての年頃でした。当時のフォークソングブームにものって、よく耳にしたり口ずさんだりしたものでした。私はもちろん戦争を知らない世代ですが、この曲のお陰で、日本には戦争という悲しい歴史があり、多くの人が苦しみ、亡くなったのだと印象付いています。今日は八月六日。何の日か、正確に答えられる人はどれくらいいるのでしょうか。今年は一学期が変則的になり、その日が何の日かということより、その日の翌日から始まる夏休みに心躍らせている人の方が多いのではないのでしょうか。

今から七十五年前の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が投下されました。その三日後の八月九日にはナガサキに投下されました。そして、同年八月十五日に戦争が終わりました。この三つの日付けは、時代は変われど日本人であるなら決して忘れてはならない日だと私は思います。生徒の皆さんは覚えていたでしょうか。

「そんな昔のことは知らんし」「もう過去のことだから」「今は戦争よりコロナだ」というような声が聞こえてきそうですね。無理もないですよね。終戦からずいぶん時間が経っていますし、今の生活を脅かしているのは、戦争ではなく、まさしく新型コロナウイルスですからね。今朝の新聞も、原爆の日の記事に割くスペースよりも、感染症に割くスペースの方が広くなってましたからね。

一年生の国語の教科書に載っていた「大人になれなかった弟たちに……」（米倉斉加年作）を覚えていますか。今は亡き米倉氏が、戦争の悲惨さを幼い子どもたちの意識の中に残そうと思って作った作品です。その作品の最後には、原爆の投下日、終戦の日がはっきりと記されています。

「戦争は二度と繰り返してはいけない」と言葉でいうのは簡単ですが、やはり意識の中にそれが焼き付いているかどうかは、先の三つの日付けを覚えているかどうかでわかります。一年の中でこのときだけです。日本が経験した戦争について改めて考えてみましょう。

（八月六日 記）

